

科目	スポーツ実技Ⅳバスケットボール	担当	鈴木 健司	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

バスケットボールは、プレイ中にコンタクトプレーが多いため、実践方法を間違えると大きな怪我やスポーツ嫌いの学生を生む可能性を持っている。本講義では、集団的技能や個人技能をゲームで十分活用できるようにし、ゲームにおける作戦の立て方、審判法、運営の仕方を取り扱う事ができるようにする。加えて、技術レベルの上級者から初心者に対して、安全かつ楽しくバスケットボールが行なえる指導方法を習得するように努める。さらに、自身の技術向上だけでなく指導者としての指導能力と心構えなども同時に学ぶことを目標とする。

【履修注意】

本講義は、スポーツ指導者養成の講義である。また、教職「保健体育コース」の選択必修科目である。全出席すること。ゲームだけを行なうのではなく指導方法も学んでいくため、積極的に授業参加すること。技術の向上と、授業クラス全般への目配り・気配りも行うこと。クラブ活動などで公欠のあった者には、補習を行う。

【評価方法】

15回の実技を受講した者に対して、実技テストを行い、80点以上を合格とする。また、レポート課題を与え、評価の対象とする(テストで80点以上の者)。

【試験について】

実技テストを行う。

再試験対象者の条件：再試験は実施しない。

【予習・復習】

体調を良好に管理し、各講義におけるドリルを復習しておくこと。

【教科書】

購入教科書なし

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	歴史・ルールや特性について
2	個人技能Ⅰ	基本的ドリブル・応用ドリブル
3	個人技能Ⅱ	シュート及びリバウンド
4	オフェンスⅠ	オフェンスボディコントロール
5	オフェンスⅡ	2メン、3メン、3人のクロス、1対1
6	オフェンスⅢ	2対2、3対3、5人速攻
7	ディフェンスⅠ	マンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンス
8	ディフェンスⅡ	3対2、2対1
9	ディフェンスⅢ	5対5、
10	ゲームおよび分析・評価Ⅰ	オフェンス面について
11	ゲームおよび分析・評価Ⅱ	ディフェンス面について
12	ルールおよび審判法と実践	審判員の動き方など
13	個人スキルの確認	ドリブル、シュート、ゲーム中での動き
14	指導方法の注意点	技術や戦術の基礎・応用について
15	まとめ	授業での総括
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ